

各種殺虫剤のモモハモグリガに対する防除効果

福島県農業総合センター 果樹研究所
平成19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

果樹 - モモ - 病害虫防除
分類コード 04-02-23000000

2 担当者

穴澤拓未・佐々木正剛・阿部憲義

3 要旨

モモハモグリガ第1世代幼虫に対する各種殺虫剤(有機リン剤1剤・ネオニコチノイド剤6剤・IGR剤2剤)の防除効果を検討した。2007年のモモハモグリガ越冬世代成虫の誘殺盛期は4月21日であり、各殺虫剤の散布は17日後の5月7日に行った。

- (1) 散布8日後の幼虫生存率はスプラサイド水和剤1,500倍、モスピラン水溶剤4,000倍、ノーモルト乳剤2,000倍で10%未満であった。一方、アドマイヤー水和剤2,000倍、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍およびカスケード乳剤4,000倍では生存率が40%以上であった。
- (2) 散布28日後の10葉あたり被害痕数の結果より、高い防除効果が認められたのは、スプラサイド水和剤1,500倍、ノーモルト乳剤2,000倍、モスピラン水溶剤4,000倍、ダントツ水溶剤4,000倍、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍、アクタラ顆粒水溶剤2,000倍、バリアート顆粒水和剤4,000倍の順であった。
- (3) アドマイヤー水和剤2,000倍およびカスケード乳剤4,000倍は他剤と比較して防除効果が劣った。

4 その他の資料等

なし